

旭川市立緑新小学校【あかるく かしく たくましく】

学校だより

緑 新

〒078-8314 旭川市神楽岡4条5丁目 電話 65-0735



「小さな幸せ」を胸に2学期の歩みを振り返る

校長 貝谷 雅敏

冬の風物詩であるイルミネーションが「ユキノワ アサヒカワ～雪と光がつなぐ街～」と名称を改め、11月下旬に市内中心部などで今年も点灯を開始しました。緑新小学校の校区住宅地でも華やかな冬の装いとなっています。

先日テレビで、人間は「嫌なこと」「危険だったこと」「できなかったこと」といったネガティブな経験は忘れないという内容の番組がありました。確かに、私が子どもの頃、タンポポを摘み取ったときに、手についた白い汁を間違えてなめてしまい、とても苦かったことを覚えています。それ以来二度と同じようなことはしていません。何度も何度もけがや痛い思いをしたことで、その危険さや辛さを身にしみて学習していったものです。

これは、「ネガティビティ・バイアス」といわれ、嫌なことや危険なことが記憶に強く残るのは、脳が「生存戦略」として機能するためだそうです。過去の危険な体験は、将来の生命を守るために非常に重要な情報であるため、脳はそれらを「次への教訓」として、詳細かつ鮮明に処理し、長期間忘れずに保持しようとするのだそうです。命に関わることはとても大切なことだからです。反対に、「楽しいこと」「うれしかったこと」が忘れがちになるのは、それが生存に直接関わらない情報として処理されるためだそうです。

最近、2年生が中休みや昼休みに校長室を訪れ「九九チャレンジ」に取り組んでいます。覚えた九九を一生懸命に復唱し、合格すると私からシールが渡されます。合格する度に「満面の笑み」を浮かべて校長室を後にします。私もその顔を見るととてもうれしくなります。小さな「ハッピー」かもしれませんが、見ている私は、「超ハッピー」なのです。

さて、最近よく聞かれる「ウェルビーイング」は肉体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味し、次のような姿だと言われています。

- ・毎日の生活が楽しく、健康で、不安や心配事がない。
- ・自分にはよいところがあると自覚し、そんな自分が好きである。
- ・勉強や生活にやる気が出て、得意なことを伸ばせる環境がある。
- ・大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしている。
- ・相談できる人がいて、安心できる居場所がある。
- ・学校や地域、社会などで、人の役に立つことをしたいと思う。

つまり、「ウェルビーイング」とは、「自己実現」と「他者との協働」という2つの軸を目指すものといえます。私は、子どもたち一人一人の「ハッピー」が実現し、子どもたちを取り巻く大人たちが「超ハッピー」となり、幸せの連鎖が広がることを願っています。

あともう少しで、2学期が終わります。あまり記憶に残らないと言われている「楽しかったこと」「うれしかったこと」「できるようになったこと」をしっかり振り返り、自分の頑張りを認め、また、「嫌なこと」「危険なこと」「できなかったこと」といった教訓を少しでも改善できるよう、冬休みに向けた計画をしっかり立ててほしいと思います。



法務省人権擁護委員による相談カード配付（5年生）

11月7日（金）、人権擁護委員の方2名が来校され、5年生に人権に関わるお話と相談カードの配付を行いました。人権とは、人が安心して幸せに生きる権利であること、いじめは人の心を傷付け、幸せに生きる権利を奪う人権侵害であることなど、人権を守ることの大切さについて学ぶことができました。お話のあとには、相談カードをいただきました。悲しい気持ちになったとき、自分一人で抱え込まず、親や学校の先生などの大人に相談したり、相談カードを活用したりするなどの対処方法についても学ぶことができました。



CAPプログラムによるワークショップ（3年生）

11月6日（水）、CAPあさひかわの方に講師としてお越しいただき、昨年度から3年生を対象に実施している「子どもが暴力から自分を守るための人権教育プログラム」を行いました。全ての方が「安心して」「自信をもって」「自由に」生きるという大切な3つの権利をもっていることについて、ロールプレイと話し合いを通して学びました。また、不審な人物に会ってしまったときなどに助けを求める際の特別な叫び声やどうしてそのような声がよいのかなど、自分を守るための具体的な方法についても学びました。



「されたら嫌なこと、人に迷惑になることは、やらないようにする。」「これからは、どんなことがあっても3つの権利を守りたい。」「特別な叫び声がすごいと思いました。」「知らない人から話しかけられても腕二本分離れて逃げたり、名前を言わないようにしたりする。」など、子どもたちにとって人権について学び考えるよい機会となりました。

アイヌ民族音楽会（4年生）

11月6日（水）、旭川チカップニアイヌ民族文化保存会の方々にお越しいただき、「アイヌ民族音楽会」を行いました。アイヌの歌や踊り、ムックルの演奏など、アイヌ民族の文化について教えてくださいました。資料集や動画では得られない迫力ある演奏や踊りに、子どもたちは食い入るように見入っていました。音楽会後も教えていただいた歌や遊びを友達と楽しむ姿が見られ、子どもたちにとってアイヌの文化に触れる貴重な時間となりました。



旭川市PTA研究大会

11月9日（日）、令和7年度 第65回 旭川市PTA研究大会が開催され、大会テーマ「自分らしく生きる事で輝く」のもと、約330名の参加者が会合し、盛大に開催されました。全体講演「子どもが輝くための子育て」では、サッカー解説者で元Jリーガー 宮澤ミシェル氏が、好きなことが心にあることの大切さ、大人は子どものために少し環境を整えてあげるとよいこと、人は変えられないけれど気付かせれば人は勝手に変わっていくことなど、これまでの経験に基づく講話をしてくださいました。4つの分科会では、各講師の興味深い内容ばかりで、実り多い研修となりました。

アウトメディアにチャレンジ！

昨今、子どもたちのメディアに触れる時間が多くなる傾向が問題視されています。メディアに触れ、情報を上手に活用することは重要なことですが、その時間が長くなると生活リズムが崩れたり心身に悪影響を及ぼしたりすることがあります。そこで、メディアとの付き合い方や基本的な生活習慣の大切さを見直す機会とするため、11月21日・22日・23日の3日間、目標を決めてメディアから少しでも離れる「アウトメディアにチャレンジ！」の取組を行いました。7月にも同様の取組を行っており、2回目の取組でしたが、いかがだったでしょうか。

〈保護者の皆様のアンケートより〉

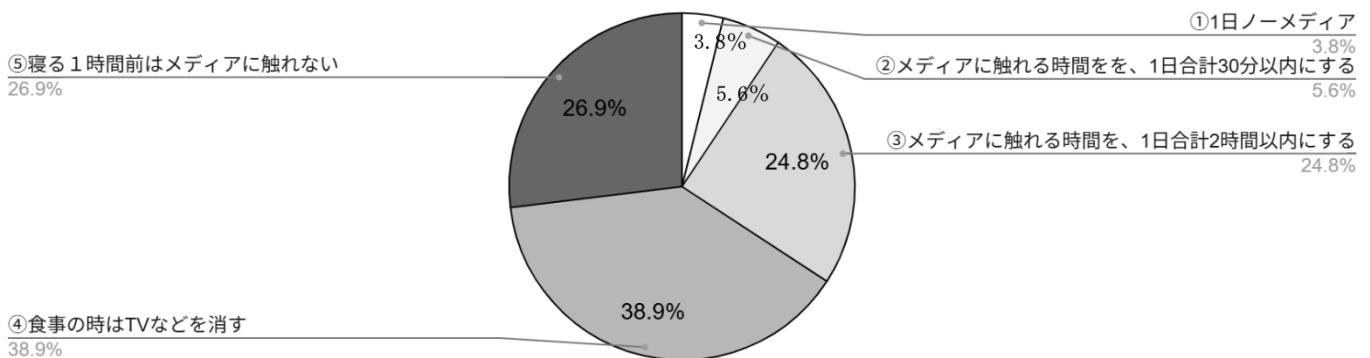
- *親自身がメディアに触れている時間が長いことに気付かされました。期間中はトランプをしたり、自然と会話が増えたり、とても良かったです。
- *YouTubeの見過ぎはよくないと、子ども自身が大切な気付きをしてくれたので、有意義な取組だったと感じています。テレビの時間を減らして余裕ができた分、自ら料理や掃除などのお手伝いもしてくれ、大変助かりました。
- *「メディアに触れる時間を30分以内にする」に取り組みました。子どもとできそうな日を設定して、少年団の大会の日に決めました。事前に特に意識する日を決めることによって、時間を気にしながら過ごしていたように感じます。
- *自分でコースを選べて前向きに取り組めているので良かったです。ありがたい企画です。

～ご協力ありがとうございました。～

低学年の児童アンケートでは「意外とできなかった。」「だいたいできたけど難しかった。」といった素直な感想も多く見られました。メディアと離れることは我慢を強いる場面もあり、代わりに何をしたらよいのか考えてくださったご家庭も多く、心から感謝しています。

一方、高学年の児童アンケートからは「メディアに触れなかった時間は、家族と話したり、物事に集中したりすることができた。」や「寝る1時間前はメディアに触れないことで、いつもよりたくさん寝れたので、これからも土日とかはこの習慣を続けてみたいです。」などメディアに触れない時間を設けたことで得られたよさに気付いた感想も多く見られました。「メディア＝悪」とするのではなくメディアとの上手な付き合い方を今後ともご家族一緒に考えていただければ幸いです。

「自分が 選んだコースを 教えてください」のカウント数



寝る前のスマホは睡眠の質を下げる！

スマホの光は脳を覚醒させ、寝付きが悪くなったり睡眠が浅くなったりします。睡眠が十分にとれないと、集中力が続かない、イライラしやすくなる、思考力・判断力が落ちるなど学習や生活面にも影響します。寝る1時間前からスマホに触れないことが有効です。

いじめを許さない学校生活

□いじめについては、法により次のとおり定められています。

いじめとは、児童生徒と一定の人間関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）で、その行為の対象になった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。

本校では、右図の「アンケート」（2回目）を行ったところ、「嫌な思いをしたことがありますか」で「はい」と答えた児童が21名でした。学校では、児童一人一人から事実確認を行った上で、学校いじめ対策チーム会議等を開き、いじめに該当するか否かを判断してきました。11月25日現在、教育相談やアンケート結果等をもとに、18件を新たにいじめとして認知しました。この認知件数だけを見ると、多く感じられるかと思いますが、児童一人一人の嫌な思いに寄り添った結果であり、最低3か月間の見守りや継続的な指導を通して解消に向けて取り組んでいきます。何気ない「ふざけ合い」であっても、目に見えないところで被害が発生している場合もありますので、今後も、いじめを許さない学校生活を送ることができるよう、全教職員で連携し、子どもたちとの豊かなかわりを深めていきます。全ての緑新っ子がいじめを行わず、いじめと知りながらも放置することなく、安心して学校生活を送ることができるよう、そして、学校の内外を問わず、いじめが行われなくなるよう、丁寧な指導と心のケア等に継続して取り組みます。また、旭川市教育委員会や子ども総合相談センター等の関係機関とも連携し、子どもたちの心に寄り添った対応に努めていきます。ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

【旭川市いじめ防止対策推進条例】→

調査票（1） 小学校高学年用 () 年 () 組

あなたは、今年の4月から今日まで、②のアンケートのようなことをされて、嫌な思いをしたことがありますか。
ア ある イ ない

②「ア」あると答えた人へ送ります。
どんなことをされましたか、アンケートの中から全部選び、○を付けてください。また、クを選んだ人は()にどんなことをされたか、具体的に書いてください。
ア 体罰やしやからかい、悪口をいわれる
イ 体罰はされず悪口をされる
ウ 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたりする
エ ひどくぶつかられたり、たたかれたりする
オ お金や持ち物をかくられたり、いたづらされたりする
カ 恥ずかしいことや恥づかしいことをされたり、言われたりする
ク メールやSNSで悪口を言われたり、仲間はずれにされたりする
ク その他()

③「ア」あると答えた人へ送ります。
あなたは、②のことで、今も嫌な思いをしていますか。
ア している イ していない

④あなたは、嫌な思いをした時、誰に相談しますか。アンケートの中から全部選び、○を付けてください。また、クを選んだ人は()に相談する人を具体的に書いてください。
ア 学校の先生 イ スクールカウンセラー ウ 先生 エ 友達
オ 兄弟姉妹 カ 電話相談 ク メールやSNSでの相談窓口
ク どれも相談しない ケ その他()

⑤あなたは、今年の4月から今日まで、友人が嫌な思いをしているのを見たり、聞いたことがありますか。
ア ある イ ない

⑥学校から「子ども相談支援センター電話相談カード」が配られています。そのカードを知っていますか。
ア 知っている イ 知らない

⑦あなたは、②に書かれていることを責め、羞しんだり、悩んだりして心が痛つく「いじめ」はどんな理由があっても許されないことだと思えますか。
ア そう思う イ そう思わない ウ よくわからない

自由記述欄 他に何か相談したいことがあれば、自由記述してください。
※書き加えるためのトラブルや家庭の悩みなど



12月・1月の主な行事予定

12月の生活目標：進んで仕事をしよう

12月

- 12月1日（月）街頭指導（火防・交通部の皆様・PTA生活環境部の皆様）、朝会
- 2日（火）保護者懇談、校内作品展
- ～12日（金）
- 8日（月）返本週間
- 11日（木）スクールカウンセラー来校日
- 15日（月）命の大切さを実感させる教室（4年生）、諸費納入日、冬休み図書貸出週間
- 16日（火）薬物乱用防止教室（6年生）、クラブ
- 18日（木）委員会
- 25日（木）2学期終業式、特別日課4時間（給食なし）

冬季休業 12月26日（金）～1月14日（水）

- 1月15日（木）3学期始業式、特別日課4時間（給食なし）、諸費納入日
- 街頭指導（文化・青少年部の皆様・PTA生活環境部の皆様）

